



## 夏の子供の病気

### 咽頭結膜熱（プール熱）

のどの強い痛み、目の充血、4～5日の高熱が主症状です。乳幼児の間で流行する夏風邪の一種で、38～40℃の熱が2～3日続きます。

### ヘルパンギーナ

のどの奥に小さな水ぶくれができて痛いので、食べられなくなります。ひどい時は水分も飲めなくなり、脱水症状になることがあります。

### 汗疹（あせも）・とびひ

寝入りばなや昼寝の後に汗をたくさんかくので注意が必要です。汗疹の予防や治療は涼しくて蒸れないようにしてあげることです。汗疹や虫刺されあとを掻きむしると、とびひになったりすることがあります。

### 手足口病

手のひら、足の裏、口の中の発疹と水疱を特徴とします。一般的には、発熱で始まる軽い病気です。ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。合併症も、ほとんどありませんが、まれに髄膜炎等の中枢神経症状が発生し、入院が必要となります。

### 熱中症

蒸し暑いところに長時間いることで汗をかき、水分や塩分が失われることによって起こります。乳幼児は脱水症状の進行が早いため、ぐったりして水分を与えても飲まない、ボーッとして反応が悪い場合は、すぐに病院へ連れて行きましょう。

手足口病



ヘルパンギーナ



咽頭結膜熱



## 【子宮頸がん】

子宮頸がんの原因は、ほぼ100%がヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染です。

多くの場合、性交渉によって感染すると考えられていて、発がん性HPVは、すべての女性の約80%が一生涯に一度は感染します。

約73人に1人が子宮頸がんにかかると報告があるほどとてもありふれたウイルスです。このため、性行動のあるすべての女性が子宮頸がんになる可能性を持っています。

毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人が命を失っています。

★ワクチンで6～7割が予防可能です。

★ワクチン接種しても20歳を過ぎたら定期検診を受けましょう。

- ・ワクチン接種によるリスクについては疼痛、腫脹、失神などがあげられます。
- ・生後2か月から開始しているワクチン接種の副反応とさほど変わりはないと言われています。
- ・万一の副反応への医療体制も整っています。

（定期接種対象年齢）  
小6～高1 相応の女子  
一定の期間をおいて3回



臨時休診案内

12日(水)  
15日(土)

